

2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

向丘中学校区	校番 22	福山市立高島小学校
最終更新日		2026年(令和8年)2月18日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ・思春期の子どもたちを指導するのは大変だと思いますが、「主体性」と「感謝する人間力」を育む教育を引き続きお願いします。	児童生徒の現状 ・行事や各取組において、挑戦したい内容を協議した上で、仲間と実現を目指す姿勢が見られる。 ・学習に粘り強く取り組む生徒が増えてきた。 ・個々の様々な状況が要因となり、長期欠席に陥る児童生徒が増えた。	育成する力 資質・能力 主体性、自己理解、課題発見・解決力	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 人とのかかわり合いを大切にし、学ぶ意欲を持ち、自分の生き方を主体的に考える子ども	中学校区として統一した取組等 ○自校の取組を深く理解し、自主性・主体性を発揮し、「子ども主体の学び」の実現に向けて取り組む。 ○各校の実践や研究についての交流を深め、職員の主体性の向上や意識改革を図る。 ○お互いの具体的な実践交流から課題意識、自己研鑽の意欲を持ち、個人的に授業参観、放課後の相談等の教職員が起点となる研修を推進する。
--	--	-------------------------------------	--	--

III 自校

ミッション 保護者や地域から信頼される学校を創るため、教職員が一致協力(オール高島)し、法規法令に則り、秩序と活力ある教育活動を展開する。
学校教育目標 しなやかでたくましい心と実践力を育てる ～学びを鍛え 心を鍛え 体を鍛える～
現状 ＜児童生徒＞ ○自ら目標を立て、それに向かって取り組むことができる児童が多かった。 ○授業や児童会活動での話し合いを通して、自己の課題を見つけ、振り返りを行うことができている。 ● 目標に向かって途中であきらめず、チャレンジしようとする児童が少ない。 ＜授業＞ ○研究教科を中心に、導入を工夫し、児童がこれまでの学習経験や生活経験と結びつけながら疑問を持ち、解決していけるようにした。また、振り返りを通して、授業の前と後で成長できたと思える児童が増えた。 ● 自分の意見を根拠(理由)をもとにわかりやすく表現することができないため、友達や先生に自分の思いを伝えることができにくい児童が多い。

育成する力 資質・能力	「言語能力」	「自己有用感」	「自己実現力」	
めざす子ども像	1年 2年	・話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。 ・自分の考えを理由とともに相手に伝えることができる。	・友達の考えや良さ・違いを認めることができる。 ・自分の言葉で伝えたことや自分の良さが他の人に認められていると感じている。	・なりたい自分について目標を立てることができる。 ・各教科の学習を通して、自分の良さや得意なことが分かり、自分のやりたいことを見つけることができる。
	3年 4年	・必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの手を捉え、自分の考えをもつことができる。 ・理由や事例などを挙げながら、伝えたいことの手を明確にして説明することができる。	・学級や集団のために役割を果たす友達を認めることができる。 ・自分が学級の中で考えたことが学級みんなに受け入れられていると感じている。	・学習の中で見つけた自分の考えや他者の意見を踏まえ、課題に対する具体的な解決方法や取組を考え、行動することができる。 ・集団の中での自分の役割を自覚し、行動することができる。
	5年 6年	・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながらやりとりし、自分の考えをまとめることができる。 ・目的や意図に応じて根拠を明確にし、筋道を立てて説明することができる。	・学校や学級、集団のために何ができるか話し合う中で、友達を認めることができる。 ・自分が学校や学級、集団の中で欠かせない存在であると感している。	・各教科の学習を通して、自分が決めた取組を実践し、目標達成のために必要に応じて協働し、改善を重ねながら、粘り強く取り組むことができる。 ・自分の良さや集団の中での役割を踏まえて、自分の将来像に向かってチャレンジする。
	研究	テーマ 理科、図工科	感じ 考え 実感したことを自己表現できる児童の育成 ～「なぜだろう?」「やりたい!」「なるほど!」「分かった!」「できた!」と児童が主体的に考えたいくなる導入の改善工夫～	
	めざす授業の姿	・「授業づくりポートフォリオ」を活用した、授業改善のマネジメントサイクル ・既習事項や生活経験を踏まえた導入の工夫・必然性のある思考・説明の場づくり ・自分の意見を上手に伝えることができる方法の提示		

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立高島小学校

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力 の 達 成 評 価	改善 方 策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力 の 達 成 評 価	総合 評 価	改善 方 策		
2	自己学習意欲を高め、児童の育成	★	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業づくりポートフォリオ」を活用し、算数科の学力向上を図る。</li> <li>様々な方法で自分の考えを分かりやすく相手に伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業づくりポートフォリオ」を活用し、生活場面と結び付け、問題場面を絵や図に表すよう指導方法を工夫し、授業改善に取り組む。</li> <li>図画工作科の鑑賞会を通して、工夫した点や友達の良かった点を伝えることで、わかりやすく相手に伝えることができるようにする。</li> <li>教職員の研修を通して、評価の仕方を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学期末テストにおいて、クラス平均を80%以上にする。</li> <li>児童アンケートを実施し、「自分の考えを分かりやすく相手に伝えることができる」の肯定評価を80%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□1学期末テスト6学年中4学年が80%以上</li> <li>□夏季研修で各クラス、ポートフォリオを記入し、2学期の授業改善について考えた。</li> <li>□ペア・グループ等で集団の中で自分の考えを伝えた後にICTを活用し、図に表したことを説明する活動を取り入れた。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期の授業改善について考えたことを実施し、ポートフォリオの取組の結果を記入していく。</li> <li>・ICTについての体験的な研修を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□2学期末テスト6学年中 全学年が80%以上</li> <li>◎ICTを活用し、問題場面を絵や図に表しながら考える活動を行うことで、「なぜそう考えたのか」を自分の言葉で説明できる児童が増え、学力の向上につながっている。</li> </ul>	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオを活用し、個に応じた支援のさらなる充実を図っていく。</li> <li>・授業の終わりに、「何が分かったのか」を振り返る時間を設け、学んだことを自分の言葉で整理する習慣を育て、さらに学力の定着を図る。</li> <li>・学級全体で多様な意見に触れられるよう、発表の形や交流の仕方を工夫し、互いの良さを認め合いながら学び合える環境づくりを進めていく。</li> </ul>
2	児童が体力を向上させる方法を工夫・改善		継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新体力テストの結果から、自己の体力の課題を見つけ、運動量を確保した授業改善を行うことで、体力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「高島っ子タイム」を計画的に行い、体づくりに対する児童の関心を高める。</li> <li>・課題のある2種目に関する動きを取り入れた準備運動を行う。</li> <li>・ICTを活用した授業を行う。</li> <li>・指導目標に基づいた指導の共有化を図るため、校内研修を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題のある2種目が、1回目よりも上回った児童を80%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ピア学年で、上の学年が下の学年に、新体力テストのやり方のポイントを教えたり、手本を見せたりする活動を行った。</li> <li>□新体力テストの結果から、各学年で課題となる種目を決定した。長期の休みに体力づくりの研修を行い、今後の授業に取り入れていきたい全身を使った準備体操等の動画を視聴した。</li> <li>□体育科の授業で、これからの学習の見通しを持たせるために、ICTを活用した導入を行い、技や動きの見本を見せることで、学習意欲を高めたり、技や動きのイメージを持たせることができた。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期の休みに行った研修をもとに、2学期の体育の授業で、課題となる種目を準備体操として取り組んでいる。課題となる種目に関する動き等を家庭学習として取り組んでいる。</li> <li>・体育科の授業でICTを引き続き活用し、自分達の動き等を動画で映し、課題や改善点を把握し、さらなる技や動きの向上につなげていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□新体力テストで課題のあった2種目について、各学年で取組を行った。取り組みの結果、84%の達成率であった。1か月ごとに個人で振り返りを行い、次の月への目標を立てて取り組むことができた。</li> <li>□体育科の授業でICTを活用することで、やってみたいという意欲を高め、技や動きのイメージを持ち、スムーズに運動に取り組めた児童が増えてきた。</li> </ul>	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新体力テストの学年で課題のあった種目は、引き続き体育の授業を中心に取組を継続していく。ICTを活用した体育の授業にも引き続き取り組み、体づくり運動や体力向上につながる動きを高めるような授業を行うようにしていく。</li> </ul>
4	働き方改革を推進し、教職員が元気で意欲を持ち働く職場づくり	★	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員がやりがいを感じながら業務に取り組む。教職員どうしが互いに意見を言いやすい職場作りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間2回熟議を行い、業務を見直すことで、業務の効率化を図る。</li> <li>・毎月の学校衛生委員会での意見交換を通じて、教職員一人一人の意見や声を職場に反映させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケート「仕事にやりがいを感じている」の肯定評価を70%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□肯定的評価71.4%</li> <li>□これまでに熟議を1回行い、出た意見を各部会で協議した。普段から改善できるものは改善していた。</li> <li>□教職員の意見を取り入れ、行事等の内容や回数などを精選し、授業準備にあてる時間を増やす努力をした。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後業務を見直したらよいものについて熟議を行う。</li> <li>・日常的に教職員の意見や声を聞き、その都度変えていく等、スピード感を持って業務改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□肯定的評価45.4%(どちらかといえば肯定的にとらえているを含めると72.7%。上半期は100%)</li> <li>□教職員から日常的な気付きを聞き、毎月の学校衛生委員会、企画委員会で改善に繋げた。</li> <li>□教職員の意見を取り入れ、行事等の精選し、授業準備にあてる時間を増やす工夫をしたが、多忙感等の解消まで至っていない。</li> </ul>	2	2	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスト意識と教育的価値を両立させ、業務の精選を行いながら働き方について、考えることができる職場づくりを行っていく。</li> <li>・業務上の課題に対して、教職員が互いにフォローし、教職員が安心して働ける組織の風土を作り上げていく。</li> </ul>

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。